

## 4 宝仏山周辺の自然

### (1) 地形・地質

標高1005mの宝仏山は、平成14年3月に大山<sup>おき</sup>隠岐国立公園に編入されました。宝仏山は、古生代から中生代にかけて堆積<sup>たい</sup>した堆積岩や火山活動でできた火山岩が、今から約2億年前に西日本一帯に起こった大規模な地殻<sup>かく</sup>変動によって変成作用を受け、変成岩に変わった「黒色千枚岩」「緑色千枚岩」など、一般的には、「千枚岩」と呼ばれる岩石でできています。変成作用とは、すでにできあがっている岩石が強い圧力や高熱によって新しい岩石（変成岩）になる作用をいいます。宝仏山の変成岩は、「三郡変成岩類」と呼ばれています。



### 【<sup>うしろだにこう</sup>後谷鉱山跡<sup>あと</sup>】

後谷鉱山は、宝仏山の中腹あたりにあり、江戸時代に始まったと言われていています。主に、銅を産出しました。昭和の中頃<sup>ころ</sup>に最盛期を迎えていましたが、現在は<sup>はい</sup>廃鉱となっています。千枚岩の露頭の中腹には、現在も坑道跡<sup>こう</sup>が見られます。また、山際を流れる小川に沿って少し下ると鉱石の運搬<sup>ぼん</sup>に使われたと思われる機械が残っています。



## (2) 植物

### ① 主な樹木

宝仏山の登山道を進むと標高 200m付近からはヤマボウシ、リョウブ、ウリカエデなどを、400m付近からはアベマキ、クヌギ、コナラ、アカマツの林を、標高 600m付近からはノグルミ、カシワを見ることができ、頂上付近ではブナの巨木や林を見ることができます。



**ミズキ科 ヤマボウシ**  
(6～7月)

大きな白い花が木いっぱい咲く。9～10月に赤く熟した実は甘みを抑えた上品な味とする。



**カエデ科 ウリカエデ**  
(4～5月)

低山に多く見られる。樹皮は緑がかった色で縦に黒い筋が入りウリを思わせるので名がついた。



**リョウブ科 リョウブ**  
(7～9月)

日あたりのよい尾根筋等に多い。真夏に小さな白い花が集まって円錐状の穂になる。花には甘い香りがありたくさんのお虫が集まる。



**リョウブ科 リョウブ**  
(樹皮)

茶褐色。古くなると不規則な薄片になってはがれ落ちまだら模様になる。ナツツバキの樹皮によく似ている。



**ブナ科 アベマキ (葉)**  
(4～5月)

葉は、長さ12～17cmと長い卵状の楕円形。表面には光沢があり、先端はとがって根元は丸い。



**ブナ科 アベマキ (樹皮)**

灰黒色。コルク層がよく発達している。別名をコルクがしともいう。縦にえぐれるように深く割れる。



**マメ科 マルバハギ (花)**  
(7～9月)

高さ1～2mの落葉低木。葉は、2～4cmの楕円形で、先がへこむ。花は、紫紅色。



**ヒノキ科 ヒノキ**  
(4月)

枝をこすり合わせて火をおこしたことから名がついた。実は球形で直径8～12mm。



**クルミ科 ノグルミ (葉)**  
(6月)

西日本に多い。鮮やかなレモンイエローの花が咲く。実は松ぼっくりのような形をしている。山地の崖の上等やや乾いたところに生える。



**ブナ科 クリ (果実)**  
(6～7月)

古くから食料として親しまれてきた。小さいが味は濃い。シバグリとも呼ばれる。



**ブナ科 カシワ (葉)**  
(5～6月)

葉は、長さ12～32cmで根元はやや耳状に張り出す。実は長さ1.5～2cmの卵球形をしている。



**ブナ科 カシワ (樹皮)**

灰褐色から黒褐色になる。縦に不規則に深い割れ目が入る。

## ② 主な野生植物

登山道入り口の歴史民俗資料館の横を上がると、秋にはアカソ、ミゾソバ、ミズヒキ、ツリフネソウといった野生植物の花が咲きほこっています。少し上がった林道付近には、オトコエシ、ヒヨドリバナ、アキノノグシ、林の中を進むとキバナアキギリ、ノブキなどに出会うことができます。さらに進むと、小平付近では、ツルニンジン、シラヤマギク、コウヤボウキ、トチバニンジン、マムシグサなどを見ることができます。



**ツリフネソウ科 ツリフネソウ**  
(6～9月)

茎は赤く節はふくらんでいる。花は紅紫色で花の柄に数個つく。実は熟すとちょっとした刺激ではじめて種子が飛び出す。



**バラ科 キンミズヒキ**  
(7～8月)

名は、長い花序をミズヒキに見立て、花が黄色いことによる。熟した実は、衣服や動物に着いて運ばれる。



**キク科 ヒヨドリバナ**  
(8～10月)

茎は上部でよく枝分かかれし、小さい花を枝先にたくさんつける。ヒヨドリの鳴くところに花が咲くのでこの名がある。花は白色だが、場所によっては淡い紅紫色を帯びるものもある。



**シソ科 キバナアキギリ**  
(8～10月)

日本産のサルビアの仲間。アキギリが紫色に対して黄色の花をつけるのでこの名がある。葉は、三角状のほこ形をしている。



**タデ科 ミゾソバ**  
(7～10月)

名は、溝等に生え、葉や花がソバに似ていことからついた。枝先に球状の花がたくさんつく。



**タデ科 ミズヒキ**  
(8～10月)

細長い穂が見る角度によって赤く見えたり白く見えたりするので、水引に見立ててこの名がつけられた。



**オミナエシ科 オトコエシ**  
(8～10月)

オミナエシに似ている。茎も太く、強そうなのが名の由来。オミナエシよりやや暗い場所に生える。



**キク科 ヨシノアザミ**  
(9～11月)

ナンブアザミに比べて頭花が小さい。近畿地方や中国地方の山にふつうに見られる。



**キク科 ノブキ**  
(8～10月)

山地の木陰等に、フキに似た葉を広げて生える。実は先端に毛が生えていて粘り、動物等につく。



**サトイモ科 マムシグサ**  
(4～6月)

和名は、茎に見える葉のさやがマムシの模様に似ていることによる。雌雄異株で雌株に実がつく。



**キキョウ科 ツルニンジン**  
(8～10月)

根が太くチョウセンニンジンに似ることからこの名がつけられた。花びらは釣鐘形で先が浅く5つに分かれる。内側に紫褐色の斑点がある。



**キク科 コウヤボウキ**  
(9～10月)

白い花だが、おしべが紅紫色を帯び、全体に淡い紫色に見える。日あたりのよい林の縁等に生える小低木。

### Ⅲ 特別編

## “ふるさと日野町の自然を愛した偉人 田淵行男”

#### 1 田淵行男さんの生涯

田淵行男さんは、日本を代表する昆虫の生態研究者で自然写真家です。田淵行男さんは、1905（明治38）年、鳥取県黒坂村に生まれ、小学校4年生まで黒坂で過ごしました。小学生のときに見たジャコウアゲハの羽化の様子やオオムラサキとの出会いなど、黒坂の自然の中で体験したことが「日本のファール」と称される世界的なナチュラリスト田淵行男の基礎を作ったと言われています。

1928（昭和3）年に、東京高等師範学校博物課（現在の筑波大学）を卒業し、10年ほど高校や中学校の教師をしていましたが、戦争のために一家で長野県安曇野に疎開しました。この地で何百回も北アルプスの山に登り、山の写真と高山蝶の生態写真を撮り続けました。その過程で生まれたのが「田淵行男 山岳写真集」、そして、高山蝶の生態を初めて解き明かした生態写真集「高山蝶」などです。その数は33冊を数えます。また、1970年から6年間、北海道に渡り、大雪山に20回以上登り、高山蝶の研究を進め、写真集「大雪の蝶」を完成し、発刊しました。

1984（昭和59）年長野県豊科町の名誉町民となり、1989（平成元）年5月31日、83歳で永眠しました。その後、田淵行男の全国のファンからの寄付金によって、平成2年に長野県安曇野に「田淵行男記念館」が完成しました。平成23年には自宅から470点にも及ぶ蝶の細密画が発見され、この記念館に展示されています。



田淵行男（1905～1989）水越武撮影



山岳写真（槍ヶ岳 中岳より）



高山蝶（クモマツマキチョウ）



田淵行男記念館

## 2 山岳写真

「山は多くの生命を産み育てる。山には、人間の知恵では推しはかることのできないほどの大きな力がいっぱい詰まっている。山は美しく、偉大で魅力に富んでいる。」

いつも山に対して尊敬の念を持って、山岳写真を撮り続けておられたのです。



富士山 北岳山頂より



平蔵谷



縦沢岳 夕映えの槍

## 3 高山蝶生態研究写真

北アルプスには、9種類の高山蝶が生息しています。オオイチモンジ、ミヤマシロチョウ、ベニヒカゲ、タカネキマダラヒカゲ、クモマベニヒカゲ、クモマツマキチョウ、タカネヒカゲ、ミヤマモンキチョウ、コヒオドシです。高山蝶とは、標高1500mから3000m近くの高山だけに生息し、氷河期の生き残りともいわれ、厳しい気候条件の中で生き抜いてきました。この高山蝶たちが、どのようにして生き抜いてきたのか、その謎を初めて解き明かしたのが田淵行男さんでした。



クモマベニヒカゲ

メスは後ろ翅裏面に灰白色や黄色の帯をもつものが多い。

環境省：準絶滅危惧種



オオイチモンジ

大形で美しいイチモンジチョウの仲間。力強くゆったりと飛ぶ。

環境省：絶滅危惧Ⅱ類



コヒオドシ

高山植物の花畑を素早く、はつらつと飛び回る。亜高山帯で羽化後、高山へ異動し、秋には山を下り、成虫で冬を越す。

## 4 <sup>ちょう</sup> 蝶の細密画

田淵行男<sup>たぶちゆきお</sup>さんは、「自分で本物のチョウに近い、<sup>くわ</sup>詳しい<sup>かん</sup>図鑑を作りたい。」という夢を持ち、採集したチョウをとて<sup>も</sup>細かくたくさん写生するようになりました。田淵行男さんは言っています。「物を見て、その姿を写生するということは、少なくとも精密に見るということが必要とする。精密で正確な<sup>びよう</sup>描写を心がけるほど、必然的に精密で的確な観察を必要とするからである。」

水彩<sup>さい</sup>絵の具で描<sup>えが</sup>かれた細密画の数は470点以上に<sup>およ</sup>及び、現在は田淵行男記念館に所蔵されています。



ヒメギフチョウ成虫



タカネヒカゲ成虫



ウスバシロチョウ成虫



オオイチモンジ成虫



ベニヒカゲ成虫

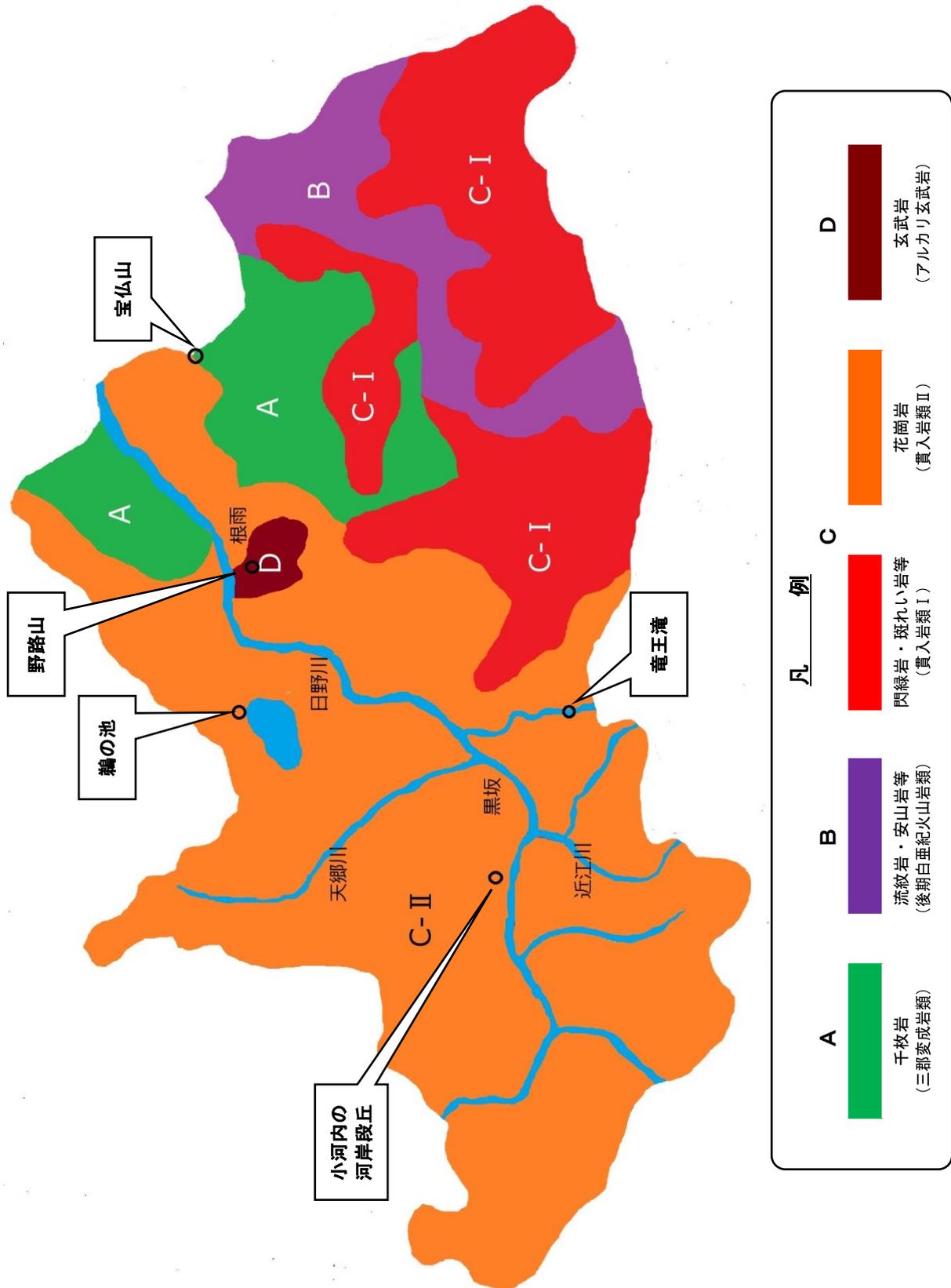
# IV 資料編

## 1 日野町の地質構成表

地質時代		地質系統	主な岩相と分布		
1 万年 前  260 万年 前  1000 万年 前  5000 万年 前  6500 万年 前  1 億年 前  1 億 4500 万 年前  2 億年 前  2 億 5000 万 年前	新 生 代	第四紀	完新世	沖積層 (日野川流域)	
		更新世	(大山火山) 段丘堆積物	(河岸段丘) 段丘礫 (根雨周辺, 黒坂周辺)	
		新第三紀	鮮新世	アルカリ玄武岩噴出	玄武岩噴出 (野路山)
			中新世	(法勝寺火砕岩層) (多里層)	礫岩, 砂岩 (日南町多里)
		古第三紀	漸新世		
			始新世		貫入岩類 II 黒雲母花崗岩 (黒坂, 久住等の日野町西半)
			暁新世	後期白亜紀～ 古第三紀深成岩類	金持礫岩 礫岩 (金持)
		中 生 代	白亜紀	後期白亜紀火山岩類	貫入岩類 I 斑れい岩 (三栗, 明地峠) 閃緑岩 (板井原川上流)
					流紋岩～デサイト (板井原, 二子山, 秋縄) 安山岩 (毛無山)
			ジュラ紀		
三畳紀	新期三郡変成岩類		前期～中期 中生代 堆積岩類 泥質片岩 (舟場) 泥質片岩, 苦鉄質片岩, 珪質片岩 (宝仏山, 根雨東部, 後谷)		
古 生 代					

清水・岡田・矢野 2001 鳥取県西部朝鍋鷲ヶ山～宝仏山地域の自然環境  
～ 鳥取大学教育地域科学部紀要をもとに編集 ～

## 2 日野町の地質図



## 参考文献

- こころも育つ「ホタルの飼育方と観察」  
(大場信義：ハート出版：平成 24 年)
- 田んぼの生きものたち  
(大場信義：農文協：2010 年)
- 山溪ハンディ図鑑 1 野に咲く花  
(林 弥栄：山と溪谷社：2003 年)
- 山溪ハンディ図鑑 2 野に咲く花  
(畔上能力：山と溪谷社：2003 年)
- 山溪ハンディ図鑑 3 高山に咲く花  
(清水建美：山と溪谷社：2014 年)
- 山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花・離弁花①  
(中川重年・吉山 寛：山と溪谷社：2002 年)
- 山溪ハンディ図鑑 4 樹に咲く花・離弁花②  
(大田和夫・勝山輝男・高橋秀男：山と溪谷社：2003 年)
- 山溪ハンディ図鑑 5 樹に咲く花・合弁花・単子葉・裸子植物  
(城川四郎・高橋秀男・中川重年：山と溪谷社：2003 年)
- ヤマケイポケットガイド①野の花・②山の花③高山の花・⑦野鳥・⑨チョウ・ガ⑩野山の昆虫・⑬野山の樹木・⑰淡水魚・⑱水辺の昆虫・⑳日本野生動物  
(山と溪谷社：2003 年～2008 年)
- 淡水魚ガイドブック  
(桜井淳史・渡辺昌和：永岡書店：2001 年)
- ポケット図鑑日本の昆虫 1400①チョウ・バタ・セミ  
(梶 真史：文一総合出版：2013 年)
- ポケット図鑑日本の昆虫 1400②トンボ・コウチュウ・ハチ  
(梶 真史：文一総合出版：2013 年)
- ポケット図鑑日本の爬虫類 157  
(大谷 勉：文一総合出版：2009 年)
- ネイチャーガイド日本のトンボ  
(尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮：文一総合出版：2012 年)
- フィールドガイド日本のチョウ  
(日本チョウ類保存全協会編：誠文堂新光社：2012 年)
- 山溪ハンディ図鑑 7 新版 日本の野鳥  
(叶内拓哉：山と溪谷社：2015 年)
- 中国・四国のトンボ図鑑  
(杉村光俊・小坂一章・吉田一夫・大浜祥治：いかだ社：2008 年)
- 日本の淡水プランクトン図解ハンドブック  
(滋賀県立衛生環境センター：合同出版：2008 年)
- 接合藻の生物学  
(濱田 仁：コウヨウ社：1991 年)
- 淡水藻類入門  
(山岸高旺編著：内田老鶴圃：1999 年)
- 鳥取の自然をたずねて  
(赤木三郎：築地書館：1997 年)
- 新訂水生生物ハンドブック  
(刈田敏三：文一出版：2015 年)
- オトシブミハンドブック  
(安田 守・沢田佳久：文一出版：2013 年)
- 淡水産エビ・カニハンドブック  
(山崎浩二：文一出版：2008 年)
- 水生昆虫①ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック  
(三田村敏正・平澤 桂：吉井重幸：文一出版：2017 年)

- 日野町誌  
(日野町：昭和 45 年)
- 探検・発見・伯耆町  
(伯耆町平成 23 年)
- 鳥取県野外学習指導テキスト 第 5 集  
「日野とその周辺」  
(鳥取県研修センター：昭和 61 年)
- レッドデータブックとっとり【改訂版】  
鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物  
(鳥取県生活環境部公園自然課：2012 年)
- 新大山の蝶 変わる自然環境の中で  
(松岡嘉之：2009 年)
- 湿地に生きるハッチョウトンボ  
(海野和男：偕成社：2005 年)
- 土砂採取跡地に偶発的に形成されたハッチョウトンボの生息地保全手法に関する研究  
(鳥取大学農学部生物資源環境学科生態工学分野 須賀奈津子：平成 21 年)
- 日野川源流オオサンショウウオガイド  
(多里まちづくり推進協議会：2013 年)
- 生誕 100 周年記念・ナチュラリスト・田淵行男の世界  
(東京都写真美術館：2005 年)
- 田淵行男に学ぼう  
(田淵行男記念館)
- 「自然を大切に」田淵行男先生の歩んだ道  
(田淵行男記念館)

## 参考地図・図

- 鳥取県西部朝鍋鷲ヶ山～宝仏山地域の自然環境  
(鳥取大学教育地域科学部紀要：清水・岡田・矢野：2001 年)
- 地質図 Navi  
(産業技術研究所 地質調査総合センター)

## 写真提供・協力者・協力団体

(五十音順・敬称略)

- 大谷 修司 (鳥根大学教育学部教授)
- 田淵行男記念館 (長野県安曇野市南穂高 5078-2)
- 富田 健吉 (大山自然歴史館指導員)
- 日野町オシドリグループ
- 千村 隆司 (大山自然歴史館指導員)
- 宮本 秀隆 (日野町企画政策課主任)
- 矢田貝繁明 (大山自然歴史館館長)
- 山本 照夫 (日野町公民館館長)

## 日野町保小中一貫教育推進委員会領域部会

- 神庭 賢一 (黒坂小学校) 奥田香代子 (黒坂小学校)
- 篠田 詩子 (黒坂小学校) 生田 求 (根雨小学校)
- 後藤 省蔵 (根雨小学校) 澤田かがり (根雨小学校)
- 川上誠之進 (根雨小学校) 鍋倉 和行 (日野中学校)
- 進木 潤美 (日野中学校) 佐藤 佳昭 (日野中学校)
- 寺本かをり (ひのっこ保育所) 池座 由香 (ひのっこ保育所)
- 遠藤 律子 (日野町教育委員会事務局)
- 砂流 誠吾 (日野町教育委員会事務局)